

昭和初期に竣工した京都児童公園の空間構造に関する研究*

Study on Structure of Space in Park for Children built in early Showa Period

藪内慎太郎**, 岡田 昌彰***

By Shintaro YABUUCHI and Masaaki OKADA

Kyoto City is known to hold quite a few modern architectures or industrial and civil engineering heritages, however, it also remains modern parks for children which have characteristic structures of scape which lead to form unique landscape. This study surveyed all of 55 parks in Kyoto City which are built in the early Showa Period to manifest the special structures formed with unique items, such as gates, "radio tower", faucets, or wistaria trellis to form the axis and vista even from the outside of the park. We classified the axis pattern of parks into 7 categories, by constructing their data-base and pointed out the emphasis of visual connection of spaces inside and outside of the park.

1. 研究の背景と目的

京都市には昭和初期に竣工した児童公園が現存しており、特徴的な空間構成と景観形成が実現している。いっぽうで、これらを網羅的に扱った調査研究は未だ存在せず、その価値に対する社会的認識は十分とは言えない。特徴的な景観や空間構成が十全に活かされることなく改修される例も近年見られ、中にはオリジナルの特徴が消滅する事例も見られる。

本研究では、京都市において昭和初期に竣工した児童公園（全55件）を対象とし、各公園における竣工当初の形態の現存状況を悉皆調査によって現地精査し、データベース化した。これに加えて、旧平面図ならびに現地調査によって各公園内の特徴的な構造物の存在（ラヂオ塔、遊具等）とその配置、街路や小学校などをはじめとする周辺環境と園路との関係、及び公園の平面形状に着目し、公園内外の軸線配置の特徴とその強調法、ならびに生成景観を明らかにした。

既往研究としては、戦前に竣工した京都市の公園を対象とし、当時の土木局長の文献を参考に形成史をまとめた土井の研究¹⁾や、市内の京都府立植物園、船岡山公園、二条児童公園に関する調査研究²⁾、京都市の公園の歴史・現況と各区に存在する都市公園の基礎データ³⁾などが存在するが、児童公園の空間構造や構造物を精査した研究は行われていない。

2. 京都市の児童公園の概要

明治6年(1873)1月15日に太政官布達16号が発せられ、従来すでに公園的に利用されていたかあるいは公園として即役立つ社寺の境内、名所、旧跡に名称を与え、公の施設としての“公園”が設けられることとなった。ここでは、都市の近代化(欧風化)、市民のための野外レクリエーション地(群集遊観ノ場所)の確保、幕藩体制の閉幕により土地された(国有化された)土地の有効利用などが目的とされているが、京都市においては明治19年(1886)に円山公園が初の公園として竣工し、明治38年(1905)には初の児童公園である「五条児童公園」が整備されている。以後、昭和20年まで55件、戦後は648件の児童公園が京都市によって整備されている。

3. 戦前の京都市児童公園のデータベース化と特徴分析

次に、京都市発行(2005)『京都市の公園』より、戦前に竣工した現存の児童公園55件を抽出し、その平面図分析と現況調査を行った。特に、軸線、外部との空間的關係、特徴的な構造物の有無、地蔵堂の有無、及びプールの有無に着目し、データベースを作成した(図-1)。ここでは、名称、所在地、竣工年、取得方法、面積、管理主体、トイレの有無、防火水槽の有無、周辺地図、平面図、現況写真といった「基礎データ」に加え、主な施設(プール、地蔵、ラヂオ塔等)、空間構造(軸線の位置、外部との関係等)に関する情報を整理した。

(1) 主な施設

a) プール

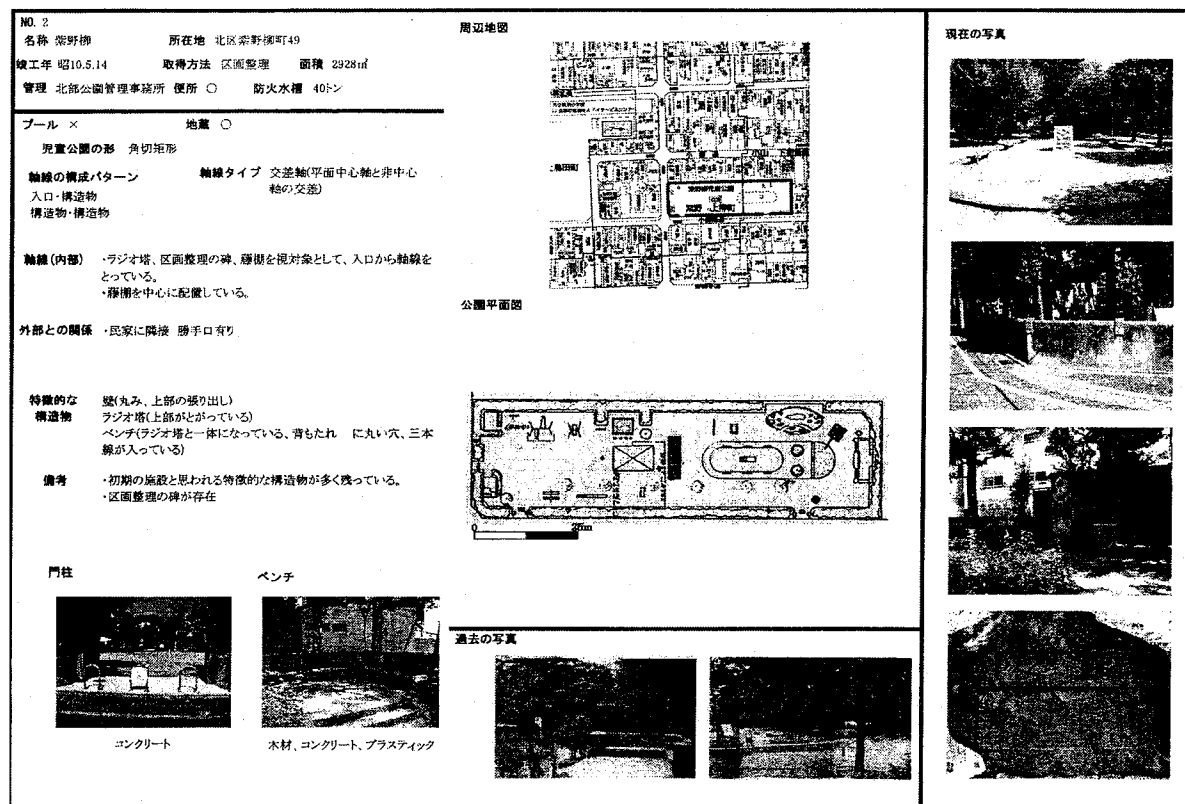
55件中31件において、竣工当初プールが設置されていたことがわかった。昭和9年(1934)に竣工した二条児童公園に、児童公園としては初の“水泳場”が設置されてい

*keywords : 児童公園, 京都市, 景観, 空間構成

**工学士 (株)ミサワホーム近畿

(〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2)

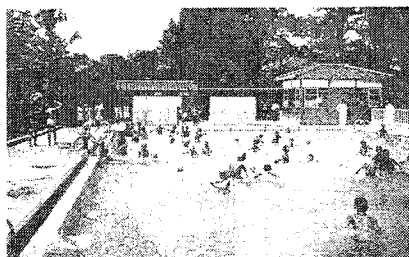
***正会員 博士(工学)近畿大学理工学部社会環境工学科
(〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1)



図－1 戦前の京都市児童公園のデータベース化

る。それ以後も面積の広い公園には極力水泳場を設置することが意図され、7,8月には児童の水泳場として、それ以外の期間は防火水槽として機能すべく計画されている。

現在は利用者の減少や施設の老朽化など維持管理の観点から廃止されているものが多く、中には放置状態にあるものも少なくない。新たに広場や花壇として使用されている例も見られた。



図－2 京都市児童公園のプール(戦前期)⁴⁾



図－3 プールの現況

(左) 廃プール(伏見区南部児童公園)
(右) 花壇に転用されたプール(北区小松原児童公園)

b) 地蔵堂(図－4)

全55件中22件において地蔵堂が公園内に設置されている。多様な形状を呈し、敷地内や角地に立地している。



図－4 地蔵堂の現況

(左) 上京区橘児童公園 (右) 南区春日児童公園



図－5 ラジオ塔

(左) 北区紫野柳児童公園
(中) 北区小松原児童公園
(右) 左京区萩児童公園

c) ラジオ塔(図－5)

全55件中4件に設置されている。ヒアリングの結果、戦前当時はこの施設に実際にラジオが取り付けられ、

ラジオ体操などが実際に行われていたことがわかった。現在は全てラジオは取り外され、コンクリート部のみ現存している。

d) 水呑場（図－6）

6件に見られた。橘児童公園のような線対称の雁行線対を伴う表現主義的なものや、高原児童公園のように竣工記念碑としてテキストが刻まれているものも存在している。



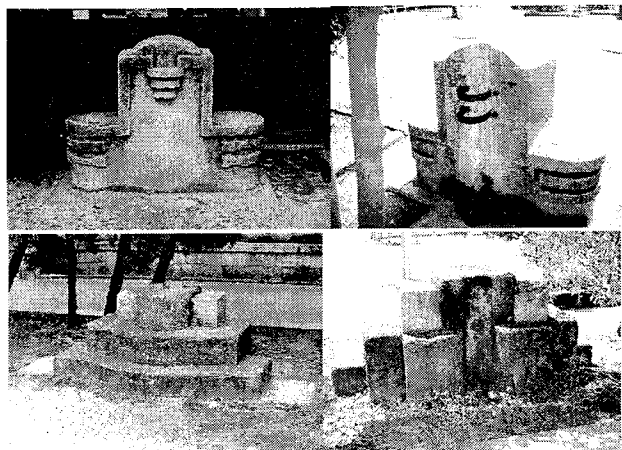
図－6 水呑場

（左）上京区橘児童公園

（右）左京区高原児童公園

e) 掲揚台（図－7）

9件で確認された。旗竿の挿入口を伴うコンクリート製の台座が現存し、現在の平面図にも「掲揚台」の呼称で呼ばれている。掲揚台としての機能は喪失しているが、下鴨森が前児童公園や六条院児童公園のような表現主義的デザインのものが多い。



図－7 掲揚台

（上）左京区下鴨森が前児童公園

（下）下京区六条院児童公園



図－8 門柱

（左）左京区地藏本児童公園

（右）右京区春栄児童公園

f) 門柱（図－8）

曲線上の溝の掘られた特徴的なもの（右京区春栄児

童公園）や、左京区地藏本児童公園のように丸窓をもち塀と連続的な門柱も存在している。

（2）施設配置の特徴

ここでは、各施設の配置や園路、植え込み、入口部、樹木などによる軸線の生成に着目し、施設配置の得着を類型化した。

各施設や街路、園路を結ぶ軸が表－1のような4パターンに分類され、それぞれ特徴的なヴィスタを形成している。また、各空間構造には一軸で構成されているものと二軸交差軸（以下、交差軸）で構成されているものがあることがわかった。

さらに、一軸では4種の型[平面中心軸、非中心軸、主対象連結軸、角二等分軸]、交差軸では3種の型[中心交差軸、平面中心軸と非中心軸の交差、交差軸（一般系）]の空間構造を伴い公園内外においてそれぞれ特徴的な景観が形成されていることがわかった（表－2）。

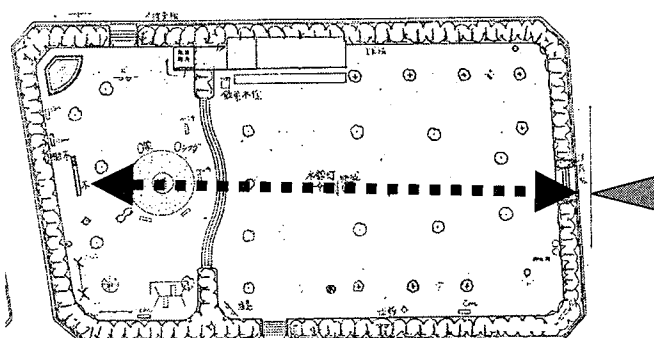
表－1 軸線の類型

入口・構造物	入口・入口	入口・街路	構造物・構造物
13件	3件	4件	7件

a) 一軸型の例（以下、図中の◀▶は写真の撮影方向を示す）

●平面中心軸型（例・左京区馬場児童公園）（図－9）

入口と西中央部の砂場、中央の遊具が南北方向の平面中心軸沿いに一直線上に配置されており、中央部にある階段の湾曲部先端もこの軸に一致している。このような空間構成は多数の事例に見られる。



図－9 平面中心軸型：左京区馬場児童公園

表 2 軸線の類型（一軸・交差軸）

	一軸				交差軸		
	平面中心軸	非中心軸	主対象連結軸	角二等分軸	中心交差軸	平面中心軸と非中心軸の交差	交差軸(一般)
概念図							
事例	馬場	二条	六条院	宮ノ前	名倉	紫の宮西	橘
平面図例							
特徴	入口と砂場が一直線上に位置。中央の階段が軸線を強調。	入口と藤棚が一直線上に位置。街路と公園入口が一直線上に位置。	構造物と遊具が一直線上に位置。	藤棚を中心として公園を垂直二等分している。	中心の構造物に視線を集める。ヴィスタ景	入口と藤棚・遊具が一直線上に位置。	入口とラジオ塔が一直線上に位置。入口からヴィスタ景

●非中心軸型(例・上京区二条児童公園補注(1):図-10)

東側の2つの入口がそれぞれ植え込みや並木によって形成される軸線上にあり、南側の軸は藤棚、北側の軸は掲揚台をアイストップとしている。さらに、東側の2箇所の入口における2つの軸ならびに西側の入口1軸が公園外の街路軸とも一致しているのがわかる補注(2)。

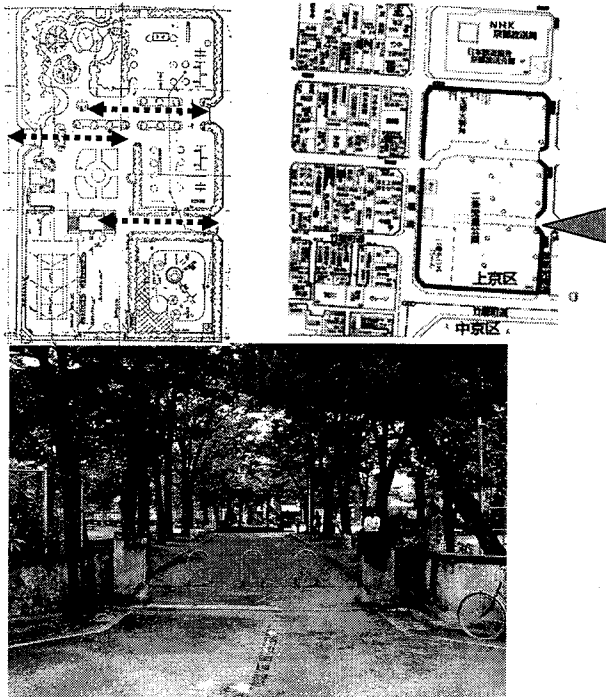


図-10 非中心軸型:上京区二条児童公園

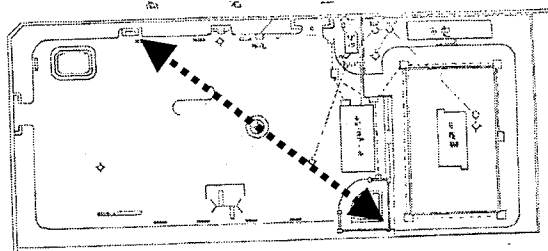


図-11 主対象連結型:下京区六条院児童公園

●主対象連結型(例・下京区六条院児童公園:図-11)

水呑場、掲揚台、遊具が一直線上に位置しており、園内で明確な軸線を形成している。

●角二等分軸型(例・左京区宮ノ前児童公園:図-12)

藤棚の中心軸と階段の湾曲部頂点を結ぶ軸が形成されているが、これが西角の二等分軸に一致している。このような型は左京区地藏本児童公園にも見られる。

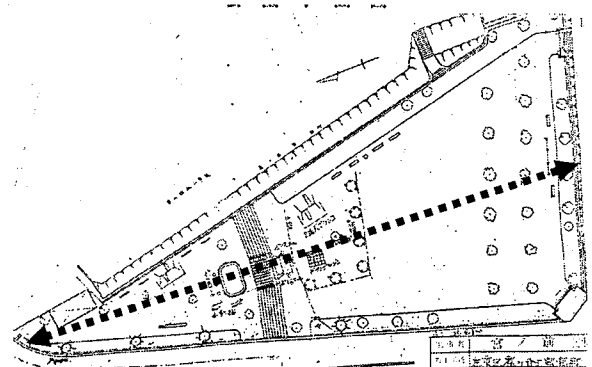


図-12 角二等分軸型(左京区宮ノ前児童公園)

b) 交差軸型

●中心交差軸型(例・下京区名倉児童公園:図-13)

東西南北にそれぞれ矩形平面の4辺の中点位置に入口を設け、中心に位置する円形の藤棚を中心にこれら対辺を結ぶ2直線が直交する。このような型は左京区下鴨森が前児童公園や中原河児童公園、下京区御所の内児童公園にも見られる。

●平面中心軸と非中心軸の交差(例・北区紫野宮西児童公園;図-14)

東西の入口を結ぶ軸に樹木対の対称軸が一致しているほか、これと直交する遊具と北入口を結ぶ軸線が存在する。中心直交軸型とは異なり交点には施設は配置されていない。

同様の型は北区紫野柳児童公園や左京区高原児童公園にも見られる。

●交差軸一般型（例・上京区橘児童公園；図-15）

北入口とラジオ塔、及び西入口と花壇によって形成される2軸が存在する。ここにおいても中心直交軸型とは異なり交点には施設は配置されていない。

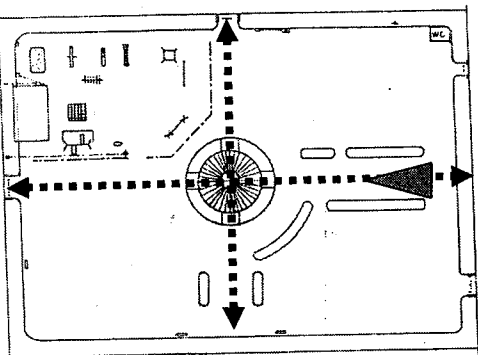


図-13 中心交差軸型：下京区名倉児童公園

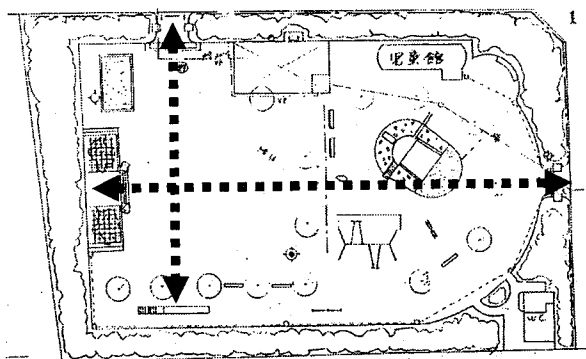


図-14 平面中心軸と非中心軸の交差：北区紫野宮西児童公園

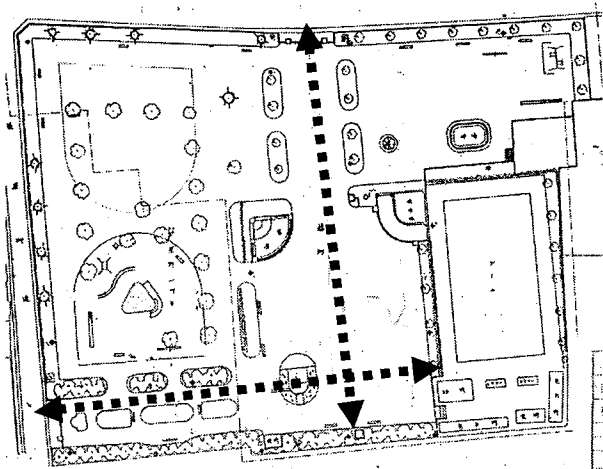


図-15 交差軸一般型：上京区橘児童公園

5. まとめ

本研究では、昭和初期に竣工した京都市児童公園をデータベース化し、現存施設の把握とともに公園内部・外部の軸線と構造物の配置との関係に着目しながら、空間構造を生成景観の特長（ヴィスタ形成）とともに分析・把握した。

戦前に形成された小規模公園におけるこのヴィスタは上述のように平面の幾何学的な遊びがふんだんに盛り込まれ、個性的な景観を周囲の街路ひいては街自体と一体的に整備する先人の成果が読み取れよう。近年はこのような近代のランドスケープデザインをも遺産として捉える趨勢があるが、その意味でも戦前竣工の京都市の児童公園は注目すべき事例であると言える。

【補注】

- (1) 二条児童公園は2004年に大規模に改修されたため、ここでは改修前の2002年の現地調査に基づき分析を行った。
- (2) このように周辺の街路と園路の軸を一致させる事例は多く、上京区内野児童公園や南区比永城児童公園などにも見られる。

【参考文献】

- 1) 土井勉 (1991) 京都市の公園形成史－第二次大戦前まで－, 土木史研究11
- 2) 京都府教育委員会 (2005) 京都府の近代化遺産－京都府近代化遺産(構造物等)総合調査報告書
- 3) 京都市建設局水と緑環境部 (2005) 京都市の公園
- 4) 京都市土木局庶務課 (1940) 京都市の公園